第2回 五ヶ丘地区教育環境検討協議会 会議録

【日 時】令和6年8月7日（水）19:00～20:55

【場 所】益富交流館 多目的ホール

【出席者】委員12名、事務局4名

【欠席者】委員1名

【傍聴者】7名

- 【議 事】
- 1 協議会の運営について
 - 2 前回会議録の承認について
 - 3 前回の説明事項の補足について
 - 4 保護者・地域への説明会について
 - (1) 検討の背景と目的
 - (2) これまでの検討状況
 - (3) 五ヶ丘地区の学校再編に向けて
 - (4) 皆さんの声をお聞かせください

【内 容】(要点)

- 1 協議会の運営について

- 2 前回会議録の承認について

- 3 前回の説明事項の補足について

- 4 保護者・地域への説明会について

1 協議会の運営について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 会議録の公開はいつからか。検索しやすい公開方法となっているか。

事務局 会議内で前回分を承認いただき、公開する流れとなる。第1回協議会の会議録と資料は、8月9日金曜日の公開を予定している。また、本日の資料内に検索キーワードを記載している。

会長 承諾ということで良いか。

各委員 (異議なし)

2 前回会議録の承認について

事務局 (資料に基づき説明)

会長 承諾ということで良いか。

各委員 (異議なし)

3 前回の説明事項の補足について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 4ページの3つ目に記載のある「全体に対する割合」について、分母は何か。

事務局 上の表にある件数の合計。五ヶ丘小でいうと65人。そのため、「全体に対する割合 五ヶ丘小 47.7%」というのは、「五ヶ丘小保護者65人に対しては、小規模校対策の手法として学校の統合を検討すると答えた人が31人で47.7%いる」ということ。

委員 五ヶ丘小保護者65人、五ヶ丘東小保護者39人は全員か。

事務局 全員ではない。回答していない保護者を含めた全保護者でいうと、割合は変わる可能性がある。

委員 すると、今の回答者数で50%を超えていないということは、回答していない保護者を含めた全保護者でいうと、過半数は統合に後ろ向きということになるか。

事務局 学校の統合に賛成か反対か聞いている設問ではなく、小規模校対策の手法として有効な手法は何かを尋ねている設問であるため、必ずしもそういった結果ということではない。

委員 昨年実施したこの小中学校の教育環境についてのアンケート調査について、周囲の話を聞くと、市内山間部の小規模校の話とっており、五ヶ丘地区の話と聞いていなかったうえ、結果が協議会で使用されると思っていなかった方が何人かいた。

また、五ヶ丘地区の小学校が統合となると、3~4年程度かかると見込まれる。小学校4年生以上の保護者もこのアンケートの対象に含まれているが、実際に子どもが在学中で影響がある保護者は、子どもが4年生以下の方なので、この結果だと納得できないと思われる。資料の信ぴょう性が低い。

事務局 確かに、小中学校の教育環境についてのアンケート調査は、五ヶ丘地区の教育環境については聞いていない。事務局としてデータを持っており、議論のきっかけとして提示したものであるため、あくまで参考として考えていただければと思う。

委員 「市全体の小規模校に関するアンケートを取った中で、五ヶ丘地区の人はこう

答えました。五ヶ丘地区の小規模校の話ではない。」ということをも明記しないと
いけない。初めて見た人は勘違いしてしまう。また、五ヶ丘地区に関するこ
ういう前提で回答されていないため、自分事としておらず、回答者も意図してない答
えになってしまったり、これを基に議論するとの的外れな話になってしまう可能性
がある。このアンケート結果の資料への記載は、資料が独り歩きしないように、
コメントを追記して、慎重に取扱う必要がある。この結果を基に再編の話が進ん
でいくのではないことを説明しなければならない。

事務局 次回の説明会で使用する予定の資料では、このアンケート結果は記載してい
ない。五ヶ丘地区の全世帯の方を対象に、五ヶ丘地区の学校再編についてのアンケ
ート調査を実施する。そのアンケート結果を基に、議論を進めていく。

委員 そもそもこれは公開すべきものではないかと思う。変な先入観を与えてしま
うこともあるし、そういったつもりで答えていないという方が出てくるかもしれ
ない。

委員 公開するとしたら注意が必要。

委員 五ヶ丘地区の全世帯を対象にしたアンケートを実施することについて、そも
も五ヶ丘の約 2,200 世帯のうち、小学校 4 年生以下の子どもがいる世帯のように、
自分事の世帯は 300~400 世帯程度である。これだけ全体との差があるため、全
体へのアンケートが意味するところも分からない。これからアンケート実施して、
統合に賛成・反対が出るなかで、興味が無い世帯が大多数という結果だったとき
にどのように進めていくか。そういったところも、難しく思う。

委員 前回統合を進めたときに、上手くいかなかった理由のひとつに、卒業した人の
声の大きいことがある。自分の母校が無くなるから、統合反対という意見があっ
た。今後、当事者として関係する保護者をメインに進めたときに、そういった話
も出てくると思われる。どこまで含めるかなど、数字の取り方は難しい問題であ
る。

事務局 多数決といった数字だけを根拠に決めることは良くないと考えている。アンケ
ートの結果で賛成・反対が出てくると思うが、それぞれの理由を聞いたうえで、
理由に対する教育委員会からの提案を示しつつ、結論が出せればと思っている。

委員 根本的な話になるが、本協議会は「五ヶ丘地区教育環境検討協議会」であり、
統廃合ありきではなく、教育環境を変えるための会議ということで良いか。

事務局 そのとおり。

委員 統合したことによるメリットが漠然としたものしか記載がなく、この協議会を
経て変化することが具体的にイメージできない。統合することでこういったこと
ができるようになるのかなど、具体性が一切無いので意見が出せない。

事務局 教育環境について、学校再編ができた際に何ができるかを、教育委員会で検討
し始めている。2 クラスになる、新しい学校ができるといったことを契機として、
特色のある教育課程や学校と他の機能を持つ施設との複合なども考えられる。た
だ、現状は具体的に何ができるとは言えない。一緒に考えていきたい。

委員 五ヶ丘東小は、いずれ小学校を統合して老人ホームとすることを見据えて、バ
リアフリーで建築されていると聞いている。そうなるのであれば、老人ホームと
するか小学校として継続させるかをアンケートで尋ねても良いと思う。

事務局 跡地の活用については、市役所内で検討している状況。具体的に老人ホームと

なる話は聞いていない。

委員 それは噂であり、老人ホームの話は無い。

委員 区長会で、ある区長が言ったことが、都合の良いように解釈されて、噂がひとり歩きしている。

委員 我々区長会では、老人ホームとなる話は聞いていない。統合した場合も、学校はそのままで使うことが無いかもしれないという話を聞いている。

市の資産経営課が別で検討しており、小学校・サッカー場・処理場の在り方を考える会議に区長として参加している。そこには教育委員会も関わっている。市は五ヶ丘地区の資産価値を守りたいということで、動き始めている。その中で学校という部分、子どもたちの教育環境について、今のままで良いのかといったことを検討して進めたいということが教育委員会の考え方である。

資料に記載のあるとおりの小規模校のデメリットが受け入れられて、今のままで良いということであれば、統合の話は無くなるが、1学年十数人という状況は普通ではないというのが我々の感覚。せめて2クラスあって、色々なメリットを生かす教育を行ってほしい。また、教育委員会もそれを生かした教育をしていきたいということであれば乗らない手はないかなと思う。

委員 今の話に出た五ヶ丘のまちづくりの話は、活性化が目的なのか。

委員 その側面もある。

委員 活性化のために人口が増えた方が良いということであれば、子どもが増えた方が良いということか。それなのに子どもが利用するサッカー場は壊すのか。

委員 現状、新しく人が入らないという評価をされている。まだ決定ではないため、2,000世帯の半分かくらいの署名があれば変わるかもしれないが、現状はその予定である。

委員 この協議会の話は、人の入れ替わりを含めず、今のままいくところなるという話で進んでいる。若い世代が多少入居してきているし、高齢者も増えているので、読めない部分もある。ただ、日本や豊田市では人口が減っていて、子どもが増えるとは思えないし、そのような中で五ヶ丘だけが増えるとは思えない。五ヶ丘というまちの価値を維持するためには、それなりのことを検討していかなければならない。そういったこともあり、区長会として、今の教育環境で良いかという疑問を投げかけた。

これはあくまできっかけで、五ヶ丘の全世帯へアンケートを取り、次のステップに進めると考えている。

委員 教育のためという話と、まちづくりという話では違うと思う。明確に分ける必要がある。

委員 前回の協議会では、地域のなかの学校という話があった。そういったまちづくりの視点でいうと、五ヶ丘も放っておいたら無くなってしまう。活性化のための人口の確保も、今の人口減少社会において争っていかなくてはいけない。

委員 人口が減少している社会でも人口が増えている市はあるので、魅力的なまちづくりが必要。

事務局 学校とまちづくりの検討は、どちらが優先ということではない。学校は地域の核となる施設であるので、一緒に考えていくものである。

教育環境をどうするかという話があって、仮に再編する必要が発生すれば学校

再編を検討し、どちらかの学校が空くとなってから、まちづくりを総合的に考えていく。

委員 その視点で言うと、このアンケートでは、基本的に再編しても良いというポジティブな回答に偏りが生じる。ネガティブな回答に対する理由を聞いてほしい。また、再編を反対する理由を項目で挙げておく等をしないと、最後の自由記述だけでは記載しにくい。

4 保護者・地域への説明会について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 小規模校の定義は何か。

事務局 国の基準では、適正な学校の規模は12～18学級としている。豊田市の平成19年度に策定した「学校規模の適正化に関する基本方針」では、12～24クラス、小学校は少なくとも6クラスとしている。現在、この基準も見直しを検討している。

委員 統合してもいずれ小規模となるということか。であるならば、資料にある小規模のメリットデメリットは不要。そうすると19ページの表現を変えてほしい。学校再編の基本的な考え方を、より詳しく記載してほしい。学校再編によって教育環境が改善、活性化して、人もまた増えるというところまで書いてもらわないと夢が無く、前向きに考えられない。

最終的な、夢のあるまちづくりのビジョンが伝われば、無くなる方の学校も統合しても良いかなと思える。また、「こういうことをしていきたい。こういうことやっていきます。」ということをもっと出してくれた方が、統合しても良いと思える一歩になると思う。

委員 19ページを見ているとバーチャルな小中一貫校がイメージできる。益富中学校、古瀬間小、五ヶ丘小などがあるが、建物そのまま連携することで、新しい教育課程や中1ギャップの解消ができるのではないか。そうすると、益富地区のモラル等が向上し、魅力のある学校になるのではないか。

事務局 オンラインを活用した授業を学校間で実施することは、小規模校対策としても有効。取り入れていくことを検討することは必要かと思う。

委員 サッカー場を無くして、新しい学校を作り、その中に地域の人が交流できるような建物を作って、五ヶ丘小と五ヶ丘東小の跡地に宅地を作ると、子どもが増えるというかもしれないという話を地域で聞いた。

委員 サッカー場の跡地に老人ホームを建てて、一人暮らしの方はそこに入居すると、空き家ができる。その空き家に、若い世帯に入ってきてもらう。といったこともできるのではないか。五ヶ丘の魅力は通学距離の短さと治安の良さ。そうすれば学校はそのまま若い世帯が増えるので良いという意見もあった。

委員 教育委員会としてはこの資料で進めていくのか。もう少し夢を見せてほしい。

委員 この資料だと小規模に悪いイメージしか湧かない。

事務局 いただいた意見を基に修正していく。

委員 11ページについて、デメリットの3つ目「教育効果が下がる」とは何か。

事務局 学年の人数が少なくなると、球技といった集団活動や行事等ができないということがイメージしやすいと思う。

委員 運動会などは人数が少なくても出番が多かったりするので、教育効果は一概に

下がるとは言えない。

事務局 左側のメリットに記載のあるとおり、活躍の機会が多いことはメリットと言える。

委員 機会もそうだが、上級生と合同で実施することも増えるため、違う教育効果もある。

事務局 左側のメリットに記載のあるとおり、異年齢との学習活動はメリットと言える。

委員 17 ページについて、「五ヶ丘各自治地区・大見自治区」と記載があるが、これは区長からの要望であり、自治区ではない。これは区長会の意見を出したものであり、自治区でまとめたものではない。当時の区長としてほしい。

事務局 承知した。

委員 「説明の内容」のスライドの「3 五ヶ丘地区の学校再編に向けて」という表現は、再編ありきに見えるため、避けてほしい。

事務局 承知した。

委員 22 ページについて、表記上、五ヶ丘小の方のみ「新館は低利用」という文言は避けたい。五ヶ丘東小を壊すような印象を受ける。

事務局 承知した。

委員 五ヶ丘小はグラウンドの形が悪く、使いにくいと思う。使用するとしたら新館は壊すことも考えられる。

委員 19 ページの2について、新しい小学校が「多様な主体の活動となる地域の拠点」という意味が分からない。

事務局 修正する。意味は、学校以外の使い方ができるのはいないかということ。

委員 19 ページの1について、魅力のある学校、教育課程の検討は五ヶ丘小の先生と教育委員会と一緒にということか。

事務局 先生と教育委員会で一緒に考えていく。

委員 新しい教育課程の検討は、五ヶ丘小だけか、市内全域で検討していくのか。

事務局 新しい学校ができるようになったら、モデル校として検討、実施していくことは考えられる。

委員 新しい学校ができなかったら、五ヶ丘小と五ヶ丘東小は小規模校対策をやらないのか。

事務局 豊田市で見ると同じような状況の学校もあるため、全体の目線で検討することになる。また、現状の規模だと何かをするにしても、先生の負担が大きいと予想される。

委員 これを見ると、誰がどのようにやっていくのかイメージできない。

事務局 教育委員会にいる指導主事、つまり学校から教育委員会へ来ている先生とも相談しながら検討している。

委員 19 ページの1について、中1ギャップとは何か。

事務局 小学校から中学校へ進級するタイミングで、人間関係や学習内容、学習進度などの環境が変わることによって、心理的に壁を感じてしまうこと。後段にあるチーム担任制とは、小学校は担任の先生が固定で、あらゆる教科を持つことになるが、複数クラスある学校だと、教科によって「算数は1組の先生が両方を持つ、国語は2組の先生」といったように、色々な先生と関わることができ、小学校のうちから先生が変わることに慣れることができる。また授業の質も向上すると効

果も得られるといったもの。

委員 古瀬間小などとも統合しないと、2つの学校を統合したとしても、そういったメリットは得られないのではないか。

古瀬間小の規模はどれくらいか。

事務局 古瀬間小は、令和5年度で300人程度の規模。通学区域としては古瀬間小は非常に大きい。

委員 再編という意味が分かりづらい。統廃合、と言われた方が分かりやすい。自分事として考えるためにも統廃合とした方が良い。統廃合以外の手法はあるのか。

事務局 合同授業など他の手法はあるが、学校が離れていることで児童や、準備等で先生の負担もある。

再編という表現には、統廃合を契機として、新しい教育課程を始める等の学校が生まれ変わる要素を含めている。しかし、自分事としてピンと来ないということであれば、統廃合に変更した方が良いと思われる。ただ単に統合して学校が減るということではなく、前向きな意味合いを含めたいため、表現は検討する。

委員 今のままで、教育環境を整えるのであれば、保護者は喜ぶ。統合しないと教育環境の整備をしないということであれば、統廃合は前面に押していくべき。しかし、「教育環境を整備します。そのために、統廃合します。賛成しましたよね。」と言われると反対の声は大きくなると思われる。

委員 統廃合はありきではないのか。

事務局 統廃合ありきではない。

教育委員会としては、学校は一定規模あった方が良いとは思っているが、皆様の意見を聞いて話し合いをしていく。また、統合をしなかったら、何もしないというわけではない。そのほかの小規模対策は行っていく。しかし、五ヶ丘地区以外にも小規模となってきた学校は多くあり、そういった状況を見ていると、その他の小規模校対策だけで済む状況ではなくなってきたと思っている。統合によって人数を増やしつつ、その他の小規模校対策も行っていくことが一番効果的と考えている。

委員 統廃合を含めた小規模校対策ということであれば、統廃合を行うことを示していくべき。

委員 言葉のインパクトがある方が良い。モデル校として色々なことに取り組んでいきますといった方が印象が良い。

モデル校となった方が、スピード感を持って今後2~3年で教育環境が改善するが、現状維持を選択すると5~6年、遅ければ10年かかってしまうことを伝えられると、自分事に感じられて良い。また、ただ単に統廃合すると言われるよりも、「〇〇もできる。〇〇が変わる。」と言われた方が、夢があって前向きに考えられる。そういったインパクトを示して、引っ張ってほしい。

また、教育環境が改善されるならば、早い方が良い。

委員 自分の周辺の保護者などから意見を聞いてきた。皆が気になっているところは、どちらの学校が残るのか、いつからなのか、それを明確にして欲しい。また、その理由も明確に説明してほしい。そうしないと納得できない。また、遠い学校になった場合に、夏の暑さや不審者等、通学の不安があった。

五ヶ丘地区の全世帯へアンケートを取るにしても、そういった聞き方をして欲

しい。統廃合を望む・望まない、統廃合をするにしてもどちらに統合するのか、といった2択で聞いていく方が良いと思う。五ヶ丘小の方は、五ヶ丘小が残ると思っているように感じるので、どちらかというのは明確にしていきたい。また、自分の学校が廃校になる方は、想像だが8割くらい反対になると思う。

委員 五ヶ丘東小もそうだと思う。気になるのは、どちらになるのか。

委員 すごく魅力的な教育課程があると、多少はその留飲が下がると思われる。際立った英語教育等は保護者は喜ぶと思う。むしろそういった何かがないと、小規模だから、デメリットがあるからといった理由では、統合に賛成はできない。

委員 統廃合について総論では賛成だが、こっちの学校になると反対という各論で反対ということがあることが、聞いていて難しいと思った。アンケートの回答も、五ヶ丘小になる場合、五ヶ丘東小になる場合で変わるとなると難しい。

事務局 結果として、どちらかが無くなることになるため、難しい問題である。

委員 通学距離が変わることは保護者にとって非常に大きい問題。

委員 低学年のこどもが、夏の暑い中長い通学距離を歩くと考えると、賛成できない。夏の間だけバスを出すということも考えられるが。

事務局 バスを走らせることは難しいと思われる。

委員 距離も苦にならない教育的な魅力を持たせることが大事。

委員 五ヶ丘地区の全世帯に向けたアンケートについて、統廃合をせず現状維持した場合も、小規模校対策を行うが、結果として小規模校対策の実施が遅くなることも書いてほしい。

委員 説明会は定員200名だが、アンケート全世帯を対象としている。説明会に出られない世帯には、どういった方法で周知をしていくのか。説明会に参加しない世帯は、アンケートが届いたときに驚くと思う。

事務局 市HP、学校やこども園を通じてアナウンスした方が良いと考えている。

委員 HPは見ない。全世帯に回るようにしてほしい。回覧が必要ならする。

委員 説明会が200人定員だと、希望者が全然見られないと思う。みんなに周知する必要はあるかと思う。また、日時が決められているため、個人の都合の良いときに見られるように動画配信等が必要。

委員 こどもがいない自分事ではない世帯が、動画を見ない、アンケートも回答しないということにもなる。

事務局 周知が必要であれば、9月7日を遅らせることもできる。アンケートの実施も遅くなるが、次回の協議会はアンケート結果を基にしないと話が進まないと考えている。

委員 問5の設問に「適切な教育環境を保つために」とあるが、この書き方だと、学校に関係のない人は、現状が適切でないと思い「1必要だと思う」を選択することになる。簡単な2択のような分かりやすい設問にすべき。

そのうえで、これから教育環境が良くなったらこうなるといった夢を盛り込みつつ、統廃合するデメリットで感じているものを聞く。そういったように、自分事になる設問にしなければいけない。

また、ただ単に児童数が減ったら統合するという考え方は納得できない。メリットがないと不安で、納得できない。

- 委員 問5の統廃合が「必要ないと思う」を選んだ理由の選択肢を列挙し、選択するようにすべき。
- 委員 自分の学校が無くなると前提にした方がイメージしやすい。
- 委員 小規模校でも五ヶ丘東小ではビオトープなど小規模校の良さを生かした縦割りの活動などもある。必ずしも統合だけではない。
- 委員 クラスを増やしてほしいという風に思っている人もいる。
- 事務局 令和11年度に8人となる学級が出てくる見込みを見ると、将来的に複式学級という可能性が出てくる。
- 委員 人口は増えてくるのではないか。転入を見込んでいない数字となっている。
- 委員 学校に関係ない世帯に、アンケートを回答するためのインセンティブを感じる方法はないか。
- 委員 五ヶ丘地区のまちづくりを巻き込んだアンケートにしてほしい。
- 事務局 まちづくりも視野にいれてアンケートを修正する。
- 委員 導入部分に現状が悪いということを書き過ぎない方がよい。先入観を与えてしまう。「魅力的なまちづくりのために」とした方がよい。
- 事務局 また、魅力的なまちというものも具体性がないと答えにくい。
- 事務局 跡地がどうなっていくかを約束して示すことは難しい。まちづくりも教育環境の整備も前向きに感じてもらえるように、少ない紙面を工夫して表現していきたい。
- 事務局 本日たくさんの意見をいただいたため、今後、修正案へのコメントをいただき、スケジュールについては再調整する可能性があるかと認識いただければと思う。次回の11月の協議会も同様に日程を含めて再検討する。
- (以上 閉会)